

# ひかりのこ

年度末園便り

聖ミカエル幼稚園

2013年3月15日発行

## ご卒園・進級おめでとうございます

聖ミカエル幼稚園の保護者の皆様、お子様の卒園、進級おめでとうございます。去年の4月に一つずつ大きくなったお子様が、一年をかけて一段と素敵なお兄さん、お姉さんに成長しました。明日、すずらんさんを涙、涙でることになりますが、ミカエルで育った子ども達なら、どこへ出しても大丈夫！という自信と信頼が私にはあります。

卒園式で卒園児の皆さんが歌う「こころのねっこ」をご紹介します。

- 1 いつのまにか おおきくなった いつのまにか つよくなった  
いつのまにか じょうぶになった いろいろ できるようになった はじめてのであい  
はじめてのなかま はじめてした たくさんのこと ないてわらった  
まいにちが みんなのこころのばねになった
- 2 いちにちいちにちおおきくなった いちにちいちにちつよくなった  
いちにちいちにちじょうぶになった いっぱいのおもいでになった  
これからのであい これからのなかま これからわかる たくさんのこと  
ここですごした まいにちが みんなのこころのねっこになれ

幼児教育は、算数や国語や生活科などの授業はありません。通知表もないしノートも教科書もありません。毎日遊び、歌を歌い、絵本を読んでもらい、お祈りをし、お弁当や給食を食べ、工作をしたり、かけっこをしたりして生活します。遊びの中で友達と大笑いしたり、ケンカしたり、ごめんねをしたり、先生たちにたくさん可愛がられながら毎日を過ごします。幼稚園生活のそれらの経験こそが、子どもたちの「こころのねっこ」となっていくのでしょう。

「こころのねっこ」・・・根が深く豊かであればあるほど植物は健康に大きく育ちます。

聖ミカエル幼稚園の生活が、年長さん、年中さん、年少さんの子どもたちのこれから歩む人生の根になっていくことを心から願っています。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 洗礼のお誘い

「神は愛なり」という表現があります。この世を造られた神様は、ご自分で造られたこの世の全てを愛しておられます。生みの苦しみを経て得た子どもを愛するお母さんの気持ちのように、この世を創造された神様はご自分の造られたこの世の全てを心から愛しておられます。しかし、悲しいことに、聖書には、神様のこの愛は世界の皆のために与えられていますが、これを実際に受け取る人はそれほど多くないと記されています。その結果、人々は、群れの中でも寂しさを覚え、多くのものを手にしても空しく、平安のない日々を過ごしていると聖書には記録されています。なぜ、人々はせっかく与えられている神様の愛を受け取らないのでしょうか。それは、神様と自分との間で個人的な関わりがない故です。いくら素晴らしいものであっても、隣の小父さんのものであれば、手を出してはいけない、確かそれはそうです。つまり、私たちのための神様の愛がいくら素晴らしくとも、神様のことを隣の小父さんのように感じている限り神様のその愛と祝福は私たちとは何の関係もないものです。もったいない話ですね。せっかく与えられている神様の愛を自分のためのものにする方法はないのでしょうか。実は、洗礼がその方法です。洗礼とは、この世を造られた神様を天のお父さんとして、そして、自分自身はその神様によって造られた子どもであるというアイデンティティを明確にするものです。来るイースター(復活日、3月31日)に、ミカエル教会で先礼式があります。幼稚園で神様の愛について学んだ園児とご家族の中で洗礼に関心のある方は、チャプレン、または担任の先生を通して申し出てください。神の愛の中を生きる平安が得られます。

「イエス様を信じる人々には神の子となる資格を与えた。」(聖書)

チャプレン ジョシュア 司祭 李 香男